

● 中神熊野神社 獅子舞(春祈禱)

東京都指定の無形民俗文化財「中神の獅子舞」による中神熊野神社例大祭「春祈禱」が、平成29年4月15日(宵宮)福厳寺・日枝神社で、16日(本宮)中神熊野神社で開催されました。両日共に温暖な好天気恵まれ、本祭の熊野神社境内には、午前11時～午後4時30分まで、多くの来場者が来られ、最終演舞まで観賞する方々で会場は最後まで盛り上りました。その他、玉川さくら太鼓・天然理心流奉納演武・フラダンスのステージ等が、要所で多彩に盛り込まれ、会場を盛り上げました。春祈禱においては、12通りの演舞のうち、今回は7通りが披露されました。

獅子舞保存会会長、西川芳雄さんの挨拶では、しっかりと、若い人を中心に今後もより多くの人材を育てて行き、東京都指定無形民俗文化財として、長く続けられるように努力していくと力強く話されました。

竿懸り解説

獅子が野や畑を荒らすので、村人は竹竿で垣根を作り防ごうとする、最初は一頭ずつ竹竿に挑んでいくが、その前振りとしての演技密度が濃く、観衆を楽しませてくれた。

獅子は竹竿を眺め、どの位置から挑むか思案をするそのしぐさが面白い。日頃の鍛錬と稽古で技術を備えてできる演技であることが伺える。

それぞれの個性を発揮する演目でもある。

終盤では、なかなか破れない竹竿に三頭で挑み竹竿に襲いかかる場面が、最大の見どころになる。今年も迫力とパワーあふれる熱演に、どよめきと声援で大いに盛り上がり、4月とは思えぬ日差しに、金色の獅子が光輝いていた。



▲中頭 植田晃生君 雌獅子 中澤大二郎君 大頭 高山大樹君

中澤大二郎君に感謝状授与

今年度の春祈禱において、中澤大二郎君が功績を称えられ、熊野神社総代・獅子舞保存会より、感謝状が授与されました。

これまでも仲間たち数人に授与されていて、数多くの若手後継者が育っています。日頃より、コミュニケーションが重要だと考える獅子舞保存会会長の西川芳雄さん。

早くから若手に対し、レベルの高い演技を指導されていることが、功を成しているようです。



▲中澤大二郎君と絆で結ぶ仲間達

自分の演技がないときは、笛の吹き手となる若手役者達、楽屋裏であれやこれやと、休む間もなくそれぞれのサポートに徹している。だからこそ心一つとなり強い絆で結ばれていると感じました。今後も末永く中神の獅子舞に貢献して下さい。(取材・写真 / 広報部会 / 部長 幡垣 誠)

